

高 橋 荣 治

長 谷 部 竹 腰 建 築 事 務 所

大阪株式取引所新市場建築に就て

日本の經濟中樞の都市たる大阪が必然規模に於て設備に於て總てに完備した大きな株式取引の市場を有せねばならぬのは明白であり新築の案は幾度か議せられつゝも容易に實施に至らなかつたが、昭和8年早々の事住友合資會社の工作部に設計の依頼があり當時課長であつた竹腰健造氏が直ちに數案の平面圖を作製され引き續き立面圖をも大體作られ大株の當事者と議定したのが骨子となつて新市場の建築が實現したのである。取引所の建築は苟も少しの浮華の氣をも許さない、本建物に於ては沈重の中に世を率ゐ導く可く豪壯なる事を眼目として設計されたもので、内外とも細部に至るまで可なり重厚な感を與へるであらうが、夫は上記の理由によるのである。

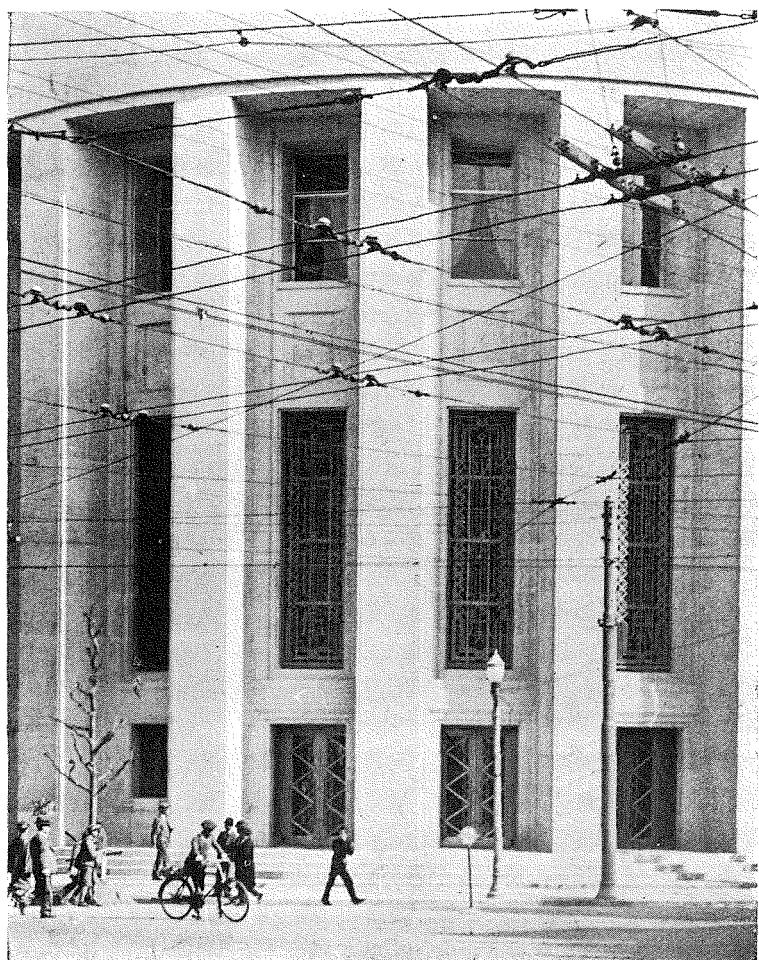
此建物の最重要部は市場である。他部は單に之に隸屬するに過ぎない。市場は高場、立會場、電話席、札場、判取場、參觀席等より成り それ等に附屬して喫煙室（立會人の休憩室）所員控室があり、他に代行會社、組合事務所、組合員會、別に貴賓室、會議室、集合室等がある。地下室には設備關係の諸室及守衛小使の室を置く。便所は1階になく市場の便所は全部地下に降してあるが之は市場を極度に擴げた結果で又衛生上よりの考も加味

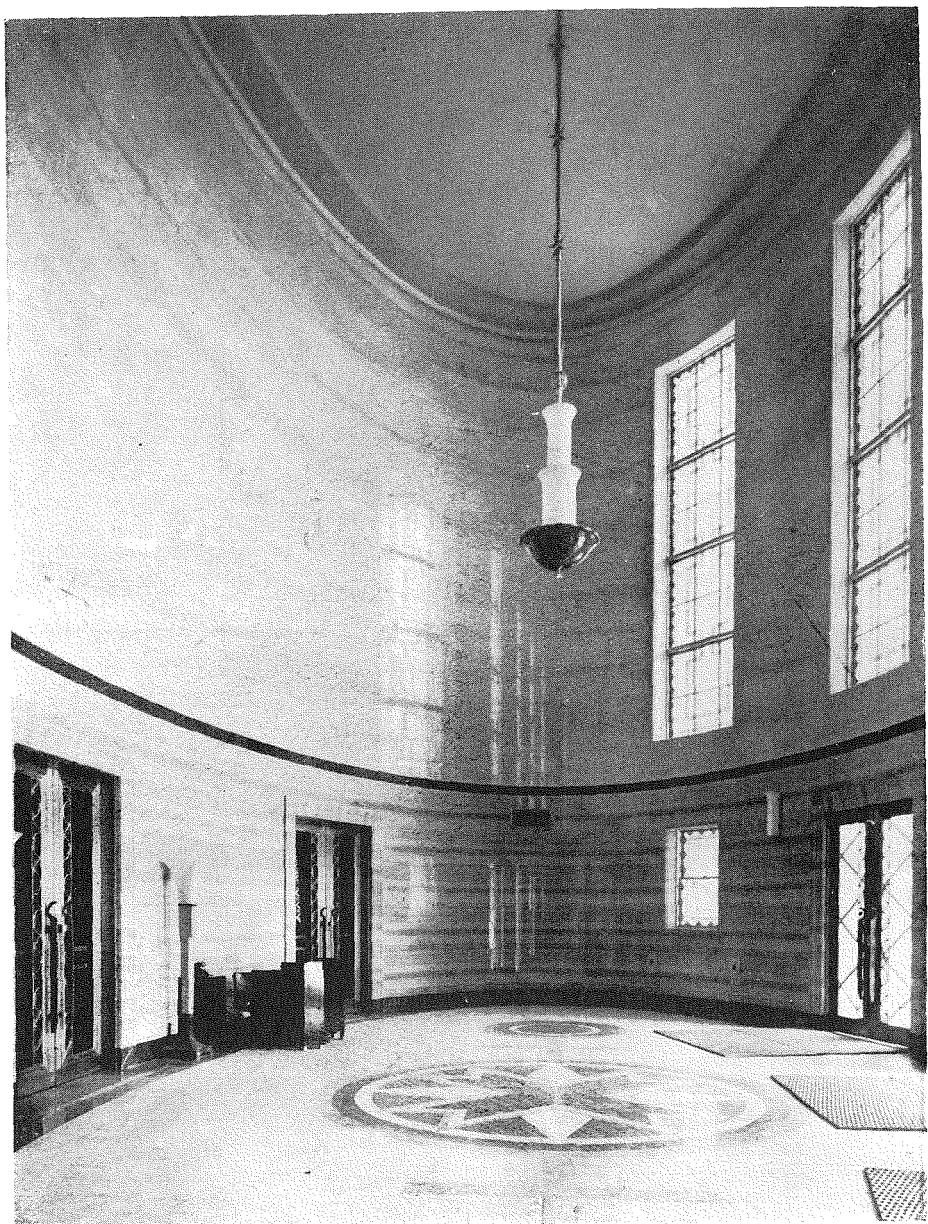
されてゐる。

新市場は櫛形の平面を有し、三方に高場を繞らし櫛の歯に當る側に電話席を設け其背後及其階上に參觀席をとつた。三方の高場の上には各其柱間のパネルに納めた表示盤がある。各部の人人が各所から總ての公定相場を見得ることが必要だからである。公定相場表示機及同操作場と電話席とには苦心を要したが、竹腰氏の熱心なる研究と異常なる獨創により總てが完全に建築的に解決せられ、市場をして其機能を充分に發揮せしむるに至つた。立會場に立會する人は電話席の自己の電話線より通知を受けつゝ取引するから電話席と完全に信號を交換し得べく、又高場及表示盤をもよく見る事が出來、電話係は立會する人と表示盤を見、參觀人は場内の空氣を察し立會及表示を見る。當市場に於てはこれ等の關係が殆んど完全に解決せられてゐる。

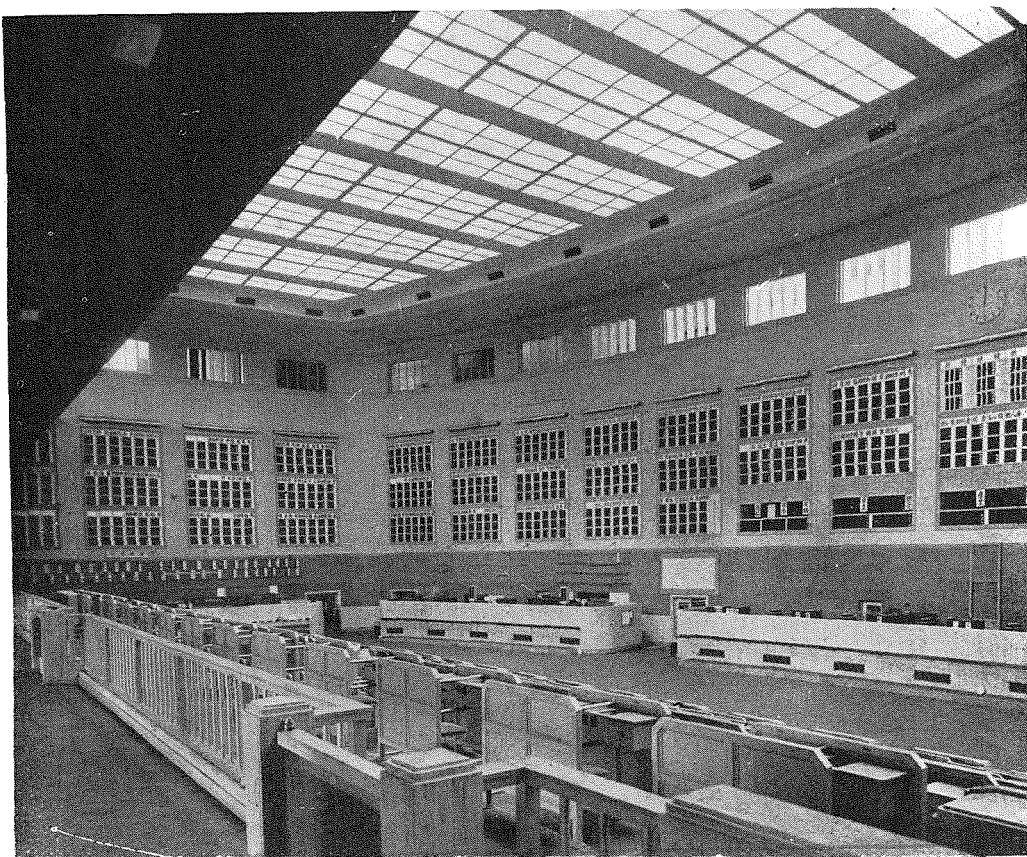
採光は天井櫛形トップライトと4階廊下の窓により曇天日の爲にはトップライトの屋根裏に多數の照明燈を入れた。音響にも非常に苦心し最後迄心を痛めたが兩者とも遺憾なき成功を納め溫濕度調整装置も完備し、市場として大きに於て第一なるのみならず其機能を發揮せしむる事完璧に近しと信する。

(2) 大阪株式取引所・總花崗石張で、3段に見える窓の最下部が正面玄關入口である。寫眞には見えぬが硝子扉の外側には彫刻入の引戸があり、ともにホワイト・ブロンズ製の豪壯なものである。中段の窓には面椅子の内側にステンドグラス嵌入のサツシエがある。

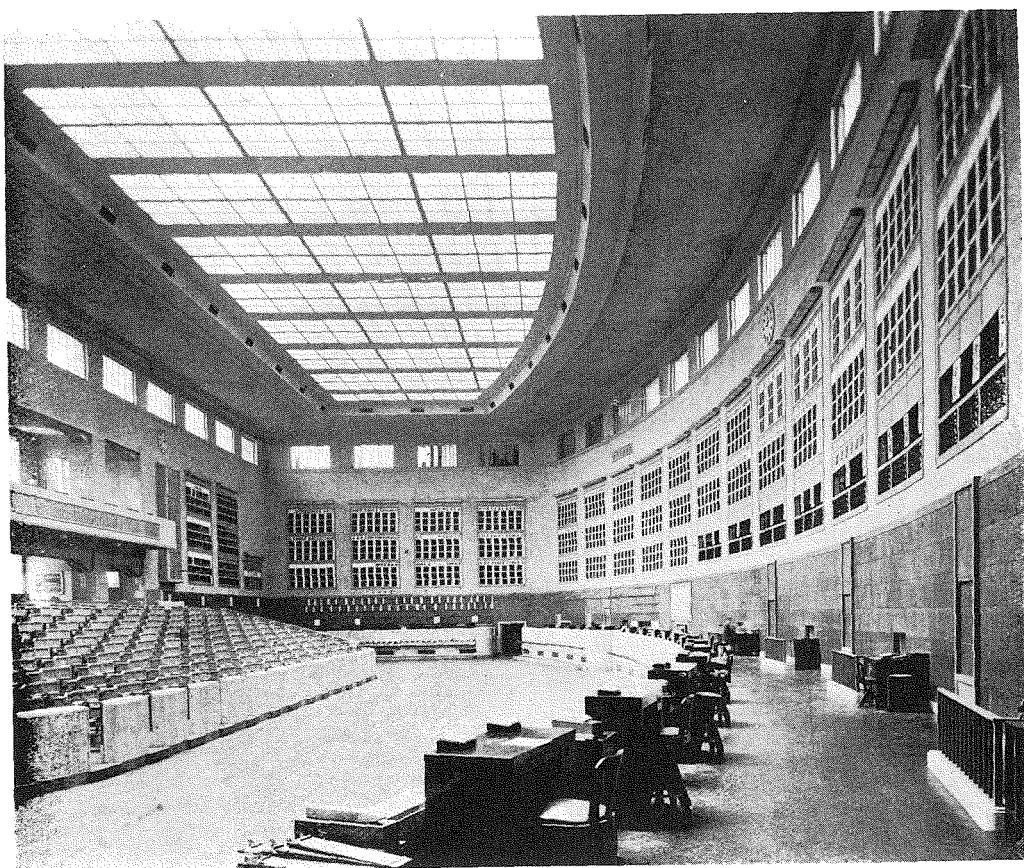




(3) 大阪株式取引所。正面玄闌の大廣間である。前頁寫眞の扉を排して入ると橢圓型の廣間がある。床は模様入大理石敷、壁は外國産で波紋のある銀茶色の珍らしい大理石が貼つてある。



(4) 大阪株式取引所・電話席の後部參觀席から市場内部を望んだもの、上部は採光のためガラス天井で、中段の横に據つてゐる細かい枠状のものが相場標示盤、その下部が高揚で、手前は電話席である。



(5) 大阪株式取引所・短期高場の端から市場内部を望んだもので、左端は電話席、右方が高場である。壁は音響を考慮して高梁漆塗りとし、又高場後の腰壁はサウンディングボックスの用ななさしめるために、オークベニヤ張としてある。



(6) 大阪株式取引所・貴賓室である。第4階西南隅に位した上型の部屋で控室と手洗所が附隨してある。壁は満洲産胡桃ベニヤ張、床寄本張。天井フランスターハンキ塗。